



ジェネリックスキル 測定の試行と 分析の報告

学校法人河合塾 教育研究開発本部 開発研究職 成田秀夫
株式会社リアセック 代表取締役 松村直樹

1. ジェネリックスキルの測定

1-1 ジェネリックスキルの背景と課題

1-2 リテラシーの測定

1-3 コンピテンシーの測定

2. 試行版の分析結果

2-1 これまでの試行概要

2-2 受検者の全体傾向

3. 測定結果の活用

3-1 測定結果の活用(学生向)

3-2 測定結果の活用(学校向)

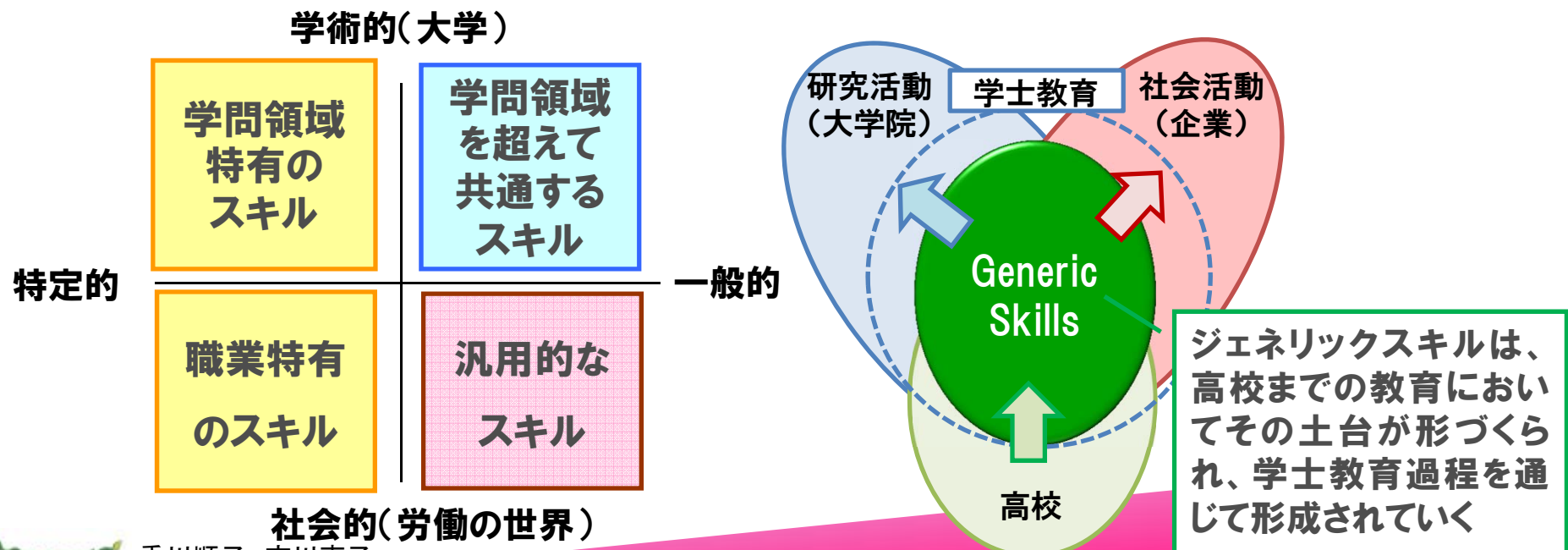
3-3 評価と育成

生涯学習社会

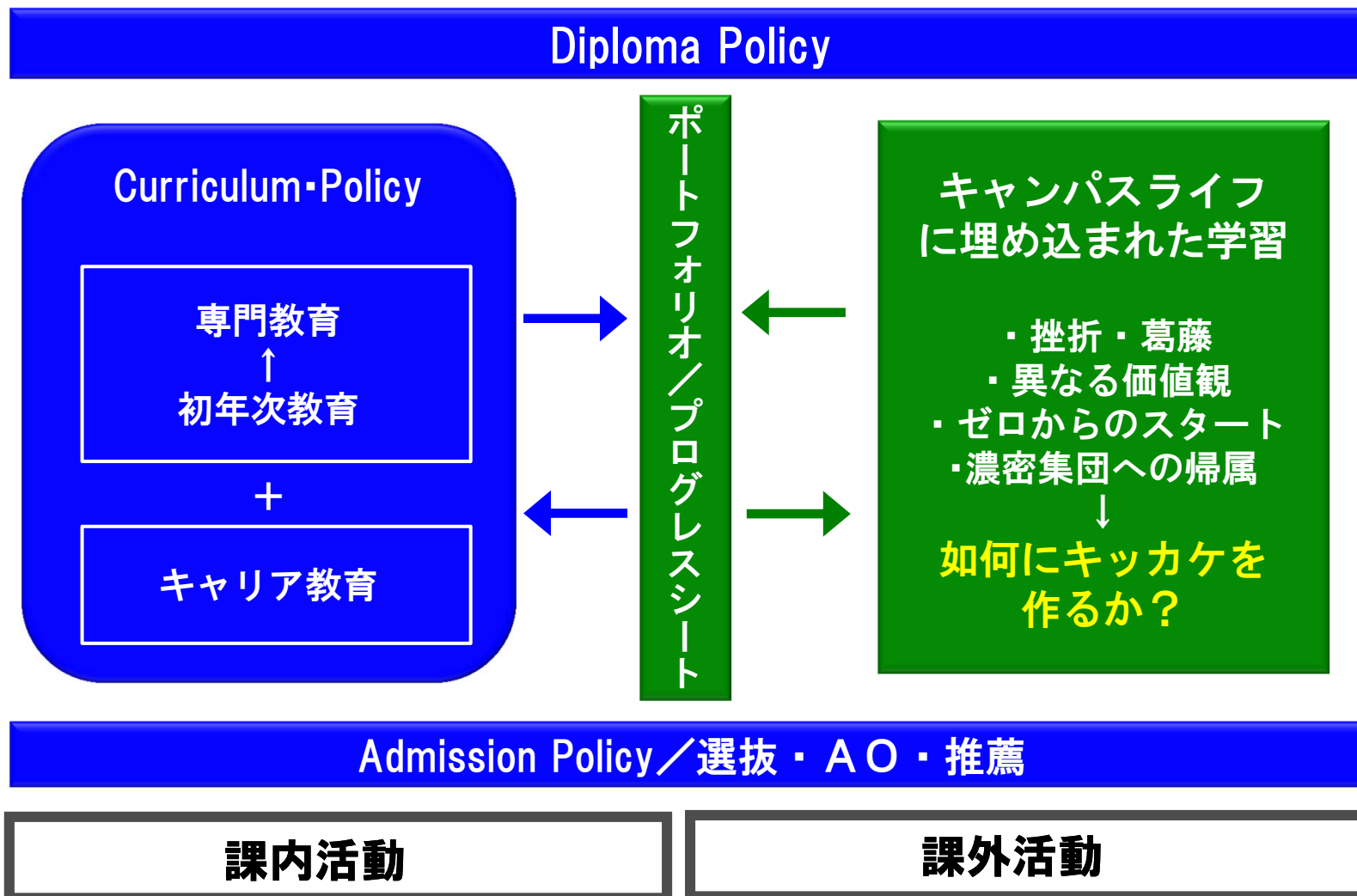
- めまぐるしく変化する社会
- だれもが未知の事態への対応が迫られる
- 転職が当たり前の社会



学び続ける力 + どんな仕事にも移転可能な力



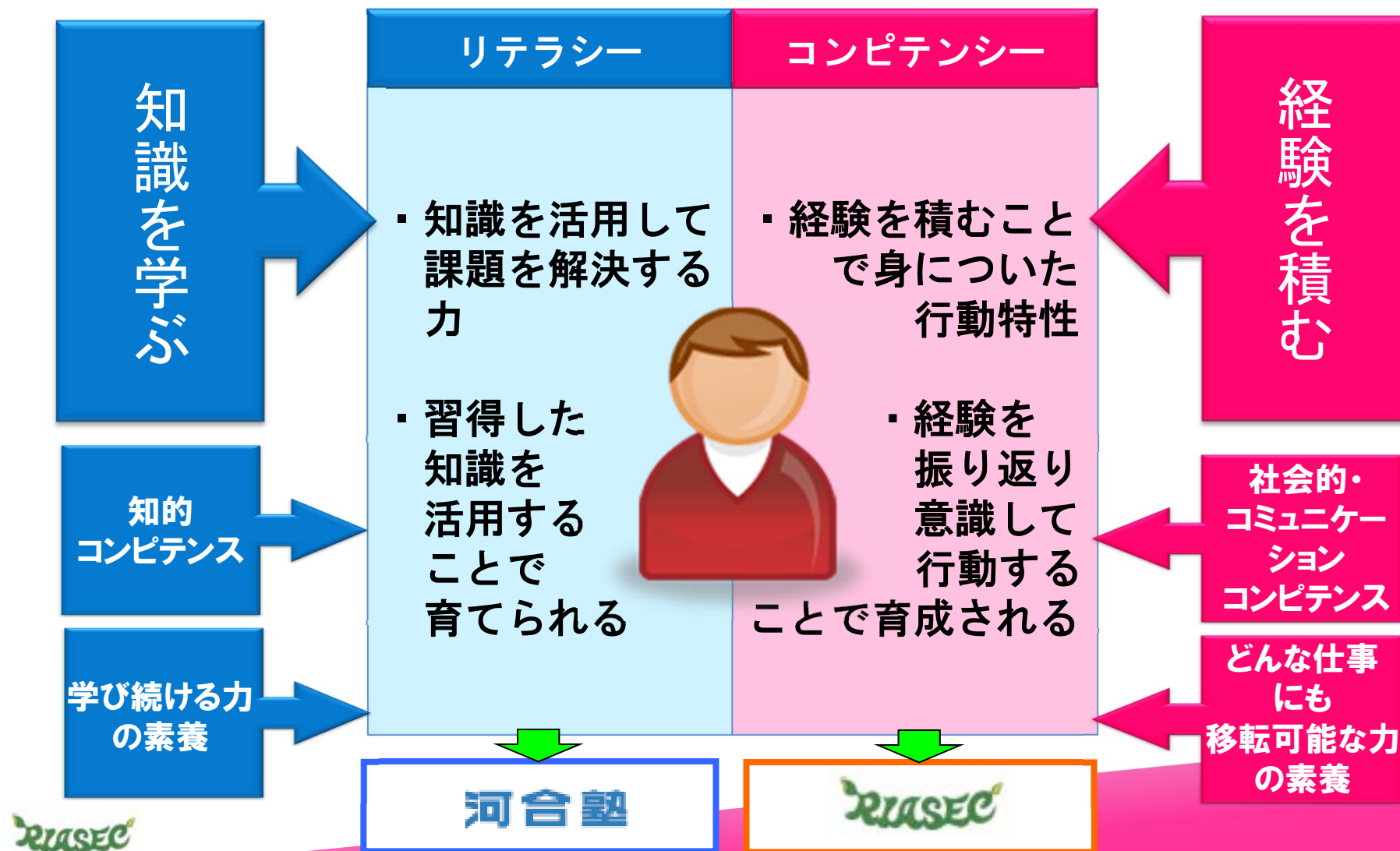
学士課程の教育体系



■ジェネリックスキルの2側面

リテラシー = 実践的問題解決力

コンピテンシー = 実践的環境交渉力



問題解決のプロセスと6つの力

⑥ 実行力

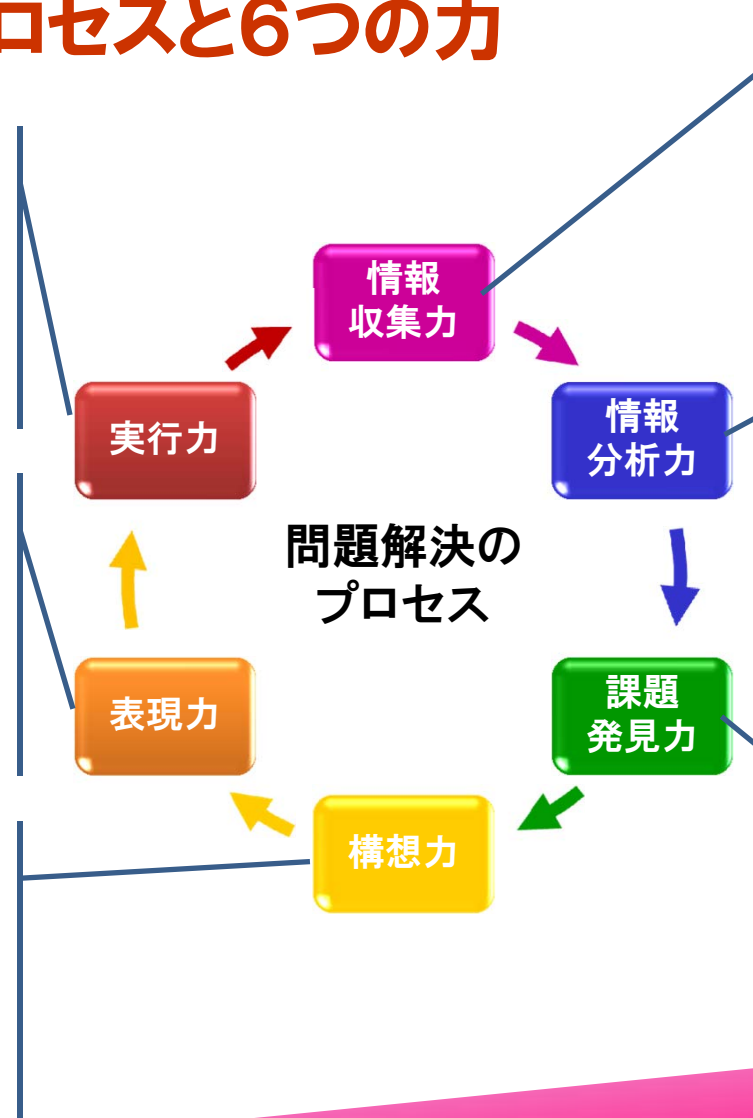
問題解決のプロセスを俯瞰し、解決策の実施をコントロールしながら問題解決を遂行し、それを評価する力

⑤ 表現力

状況や場面に即して、伝えたいことを伝えたい相手に、的確な手段を用いて伝える力

④ 構想力

さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処方法を構想する力



① 情報収集力

課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理する力

② 情報分析力

事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的にかつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見きわめる力

③ 課題発見力

さまざまな角度、広い視野から現象や現実を捉え、その背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力

質問紙法に適した4つの領域を測定



①情報収集力

テスト項目

- 1) **情報検索** 情報源の特性／目的に応じた情報検索の方法など
- 2) **情報の整理・保存** 情報を適正かつ効果的に活用するための方法など
- 3) **アンケート・インタビュー(一次情報の収集)** 目的に応じたアンケート・インタビューの方法など

問題のサンプル

あなたは、ある携帯電話の販売店Xの店長です。Xでは、最近売り上げが落ちてきているので、来店者へのアンケートを作成・実施することになり、店員全員でアンケートの質問と回答の選択肢を考えることにしました。作成会議の際、店員Bさんからは次のような案が出されました。

質問：当店の雰囲気と店員の対応はどうでしたか？

回答：A.不満 B.やや不満 C.普通 D.やや満足 E.満足 F.たいへん満足

この案に対する指摘として最も適切なものを、①～⑤の中から1つ選んでください。

- ① 質問で何を聞こうとしているのかがはっきりしない。
- ② 質問を丁寧語にする必要はない。
- ③ 回答で、「不満」と「満足」とのバランスがおかしい。
- ④ 「普通」という選択肢はやめた方がよい。
- ⑤ 選択肢が6個もあるのは多すぎる。

②情報分析力

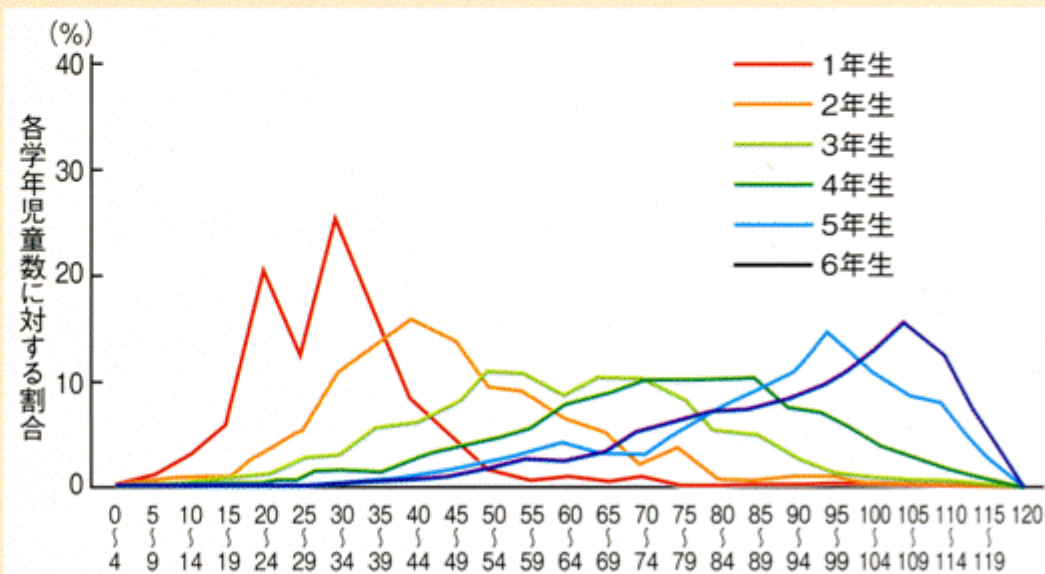
テスト項目

- 1) データ・グラフの読み取り(+数的処理力) 正確な読み取りと考察/複数のグラフの読み取りの統合など
- 2) 文献・資料の読み取り(+言語的処理力) 語彙の理解/主題の読み取り/構造的な理解など
- 3) 批判的な分析 事実と意見の区別/多角的な視点/論証の検証など

問題のサンプル

右のグラフは小学校における学年ごとの国語学力の伸長を示したものです。このグラフに関する見解として正しいものを①～⑤の中から1つ選んでください。

- ① 3年生では学力の二極化が顕著に見られる。
- ② 1年生の学力差は就学前の学習量が原因と考えられる。
- ③ 学年が進むにつれ学力が平均化する傾向が見られる。
- ④ 3年生以降、生徒の学力は伸び悩む傾向が見られる。
- ⑤ 学年が進むにつれて学力の格差が広がっている。



◎図9-1 小学校国語学力到達テスト(読解)の得点分布(天野・黒須, 1992)

(『文章理解の心理学』大村彰道監修 村田喜代美 久野正樹編 北大路書房p135)

③課題発見力

テスト項目

- 1) 問題の洗い出し ブレインストーミング／SWOT分析など
- 2) 問題の整理・分析(問題の構造化・原因追従) 問題の構造化・原因追求(親和図法／ロジックツリー)など
- 3) 課題の設定 問題の優先順位／資源の分析／課題の明確化など

問題のサンプル

A君は自分の日頃の行動をふり返り、「問題解決のための4つの力～情報収集力・情報分析力・課題発見力・構想力」に即して、自分の強み・弱みを考えようとしています。以下①～⑤は、A君の日頃の行動パターンです。A君の行動パターンをふまえ、A君の一番の強み・一番の弱みを4つの力の中から選んでください。

- ① わからないことは、まずはインターネットで調べ、その概要をつかむようにしている。
- ② つい完璧を求め、理想的な解決策を打ち出すことが多く、「絵に書いた餅」となることが多い。
- ③ 研究室を決める際は、先輩や担当教官にじかに会って、話を聞くようにした。
- ④ 読んだ本は、タイトル・筆者・出版社と簡単な感想を書きとめ、データベース化している。
- ⑤ 問題解決のために、あれもこれもやろうとして、結局なにもできなくなってしまうことがある。

④ 構想力

テスト項目

- 1) 解決策のアイデア出し ブレインストーミング／チェックリスト法など
- 2) 解決策の絞り込み 資源の分析／比較・検討(マトリックス・ロジックツリー)など
- 3) 解決策の具体化 行動計画／リスク対応／作業工程表など

問題のサンプル

Aさんは大学2年生で、中学2年生のB君の従兄です。2学期の中間試験後のある日、B君から以下のような相談を受けました。有効な解決策を提案するためのAさんの行動として不適切なものを、①～⑤の中から選んでください(1つとは限らない)。

最近学校の成績が下がっている。母親は部活をやめて塾に行くように言う。自分も県立トップのX高校には何としても行きたいと思っているので、成績の低下は何とかしたいが、部活は楽しいしせっかくここまで頑張ってきたので、やめたくはない。

- ① 成績が下がっている教科を確かめ、その教科のみ家庭教師を頼む方法もあると伝えた。
- ② 部活は高校でもできるので、部活をやめて勉強時間を増やすべきだとアドバイスした。
- ③ どのような勉強の仕方をしているのかを確認し、勉強の仕方についてアドバイスした。
- ④ 部活と勉強を両立したAさん自身の経験を話し、勉強も部活も頑張るように励ました。
- ⑤ 1週間の行動を書き出し、塾のスケジュールと照らし合わせて検討するように言った。

環境と効果的に交渉する力を「対課題」・「対人」・「對自己」の領域に分けて測定

PROGのコンピテンシー (リクルートと共同定義した基礎力)		内容	構成要素	社会人基礎力 (経済産業省)		学士力 (文部科学省)			
対課題 基礎力	課題発見力	問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	情報収集・本質理解・原因分析 など	考え抜く 力 (シンキング)	課題発見力	汎用的 技能	問題解決力		
	計画立案力	問題解決のための効果的な計画を立てる	目標設定・シナリオ構築・計画評価・リスク分析 など		計画力		論理的思考力		
	実践力	効果的な計画に沿った実践行動をとる	実践行動・修正・調整・検証・改善 など		創造力		情報リテラシー		
対人 基礎力	親和力	円満な人間関係を築く	親しみ易さ・気配り・対人興味・多様性理解・人脈形成 など	チームで 働く力 (チームワーク)	発信力		数量的スキル	数量的スキル	
	協働力	協力的に仕事を進める	役割理解・連携行動・相互支援・相談・指導・他者の動機付け など		傾聴力			コミュニケーションスキル	
	統率力	場をよみ、目標に向かって組織を動かす	意見を主張する・創造的な討議・意見の調整・交渉・説得 など		柔軟性				
對自己 基礎力	感情制御力	気持ちの揺れをコントロールする	セルフアウェアネス・ストレスコーピング・ストレスマネジメント など		状況把握力		チームワーク リーダーシップ	市民としての 社会的責任	チームワーク リーダーシップ
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する	独自性理解・自己効力感・楽観性・機会による自己変革 など		規律性				倫理観
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける(学習行動を含む)	主体的行動・完遂・良い行動の習慣化 など		ストレスコントロール				自己管理力
				前に踏み 出す力 (アクション)	主体性	態度・ 志向性	生涯学習力		
					働きかけ力				
					実行力				

ルーブリックを用いた自己評価

● 周囲や集団に対して (Q5~Q7)

Q5) 【役割理解・連携行動】 自分や周囲の役割を理解する・互いに連携・協力して物事を行う

- 1 集団の活動には非協力的な方である
- 2
- 3 みんなで決めたことは、できるだけ協力するよう心がけている
- 4
- 5 集団の中で、自分の担当の仕事をきちんと遂行することができる
- 6
- 7 自分の役割だけでなく、関係者と連携をとりながら、協力して課題に取り組むことができる
- 8
- 9 成果を上げるために、自分の果たすべき役割を自ら理解し、周囲と協力して課題に取り組むことができる

有す
云えた
ようと

- 5 自らすすんで報告・連絡・相談をし、有用な情報を周囲に伝えることができる
- 6
- 7 もっている情報を自分が提供するだけでなく、周囲からも有用な情報を引き出すことができる
- 8
- 9 個人が有している情報を、各人がすすんで提供し皆で共有するようなくみや環境をつくりだすことができる

社会人「基礎力」セルフチェック票 ()

設問1. 下記のQ1~Q23について、各4~10の選択肢の中で、自分は何れに最も近いと思いますか。あるいは半分の横の口をチェックしを入れてください。
*文章のない情報は、その前後の奇数の中間程度とお考えください。(例: 2は1と3の中間程度)

● 周囲や集団に対して (Q5~Q7)

Q5) 【役割理解・連携行動】 自分や周囲の役割を理解する・互いに連携・協力して物事を行う

1 集団の活動には非協力的な方である

2

3 みんなで決めたことは、できるだけ協力するよう心がけている

4

5 集団の中で、自分の担当の仕事をきちんと遂行することができる

6

7 自分の役割だけでなく、関係者と連携をとりながら、協力して課題に取り組むことができる

8

9 成果を上げるために、自分の果たすべき役割を自ら理解し、周囲と協力して課題に取り組むことができる

Q6) 【情報共有】 一緒に物事を進める人達と情報を共有する

1 自分もっている情報や知識などを他の人に伝えたり、教えたりすることは少ない

2

3 自分もっている情報や知識などを周囲に伝えようとしている

4

5 自らすすんで報告・連絡・相談をし、有用な情報を周囲に伝えることができる

6

7 もっている情報を自分が提供するだけでなく、周囲からも有用な情報を引き出すことができる

8

9 個人が有している情報を、各人がすすんで提供し皆で共有するようなくみや環境をつくりだすことができる

Q7) 【相互支援】 互いに力を貸して助け合う

1 他人が困っていても、頼まれなければ手助けしない

2

3 自分の役割だけでなく、周囲の状況にも気を配るよう心がけている

4

5 周囲の状況に気を配り、タイミングよく手助けすることができる

6

7 周囲の状況に気を配るだけでなく、自分の不足している点を周囲を巻き込みながら補って、課題に取り組むことができる

8

9 参加者が互いに助け合い、力を補完しあうようなくみや環境をつくりだすことができる

● 話し合いの場面で (Q8~Q10)

Q8) 【話し合う】 話し合いに積極的に参加する、話し合いの場づくりをする

1 説明が不足して話が伝わらない

2

3 自分の考えは言うが、必ずしも筋道立てた話し方ができているとはいえない

4

5 自分の考えを筋道立てて話すことができる

6

7 自分の考えを相手にわかりやすく相手に理解し易いように伝えることができる

8

9 自分の考えを明確に意図・情熱を込めて伝えることができる

6 ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、あまり動揺しないですぐ対応できる

7 一度始めたことは必ず最後までやり切る

8

9 非常に強いストレスや、大きなプレッシャーがかかる場面でも動揺することなく上手に行動できる

9 障害があっても、一度取り掛かったことは自分が納得できるまで粘り強くやり遂げる

6 経験のあることについては、周囲との関係も考慮して、実現の可能性の高い計画・手順を立てることができる

7

8

9 初めてのことで抽象度が高いことでも、いつまでに何をやるのかの具体的な行動計画を立てることができる

を認め、自己の強み
らない
が、強みはわかっている
を意識しながら物事に
味を認識しており、どん
が得意である
に自信をもつ、前向き
か行動できない
るまでに時間がかかり、
ったほうが良いと
ったほうが良いと
行動に移す
動を柔軟に変更する
り遅れや状況変化に
多い
がら行動を優先している
形外の事態に反応
る
見して、必要に応じて
できる
べきことを自分で考え
ること以上のことを、自
ら、粘り強く取り組むや
びなでやめてしまった
を感じる、投げ出してし
あきらめず頑張る方

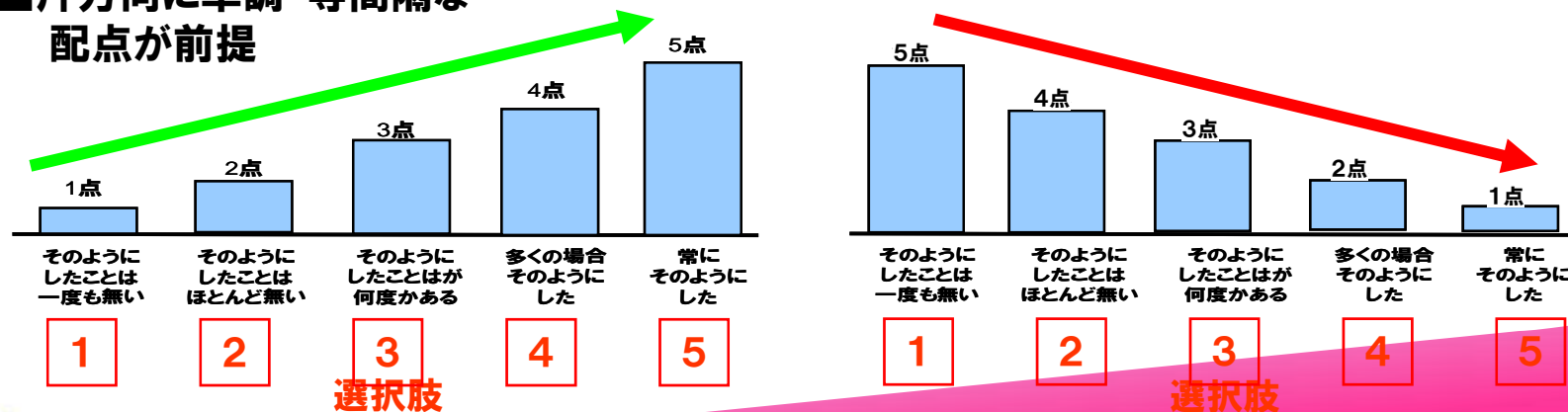
能力測定における通常の配点方法

- ・従来の性格テストや能力テストにおいては、例えば5肢選択の場合、1点から5点の等間隔な配点を前提として採点される。
- ・しかし、この方法では、項目の意味を解釈して社会的に望ましいと思う一番端の選択肢を選べば、回答者は容易に高得点を獲得してしまうことになり、能力を正當に測定しているとは言えなくなってしまう。

■通常配点

自分が経験が強く、他の人のようにうまく物事をこなせないようなとき、あなたはこれまでどのように行動することが多かったですか						
No.		そのようにしたことは一度もない	そのようにしたことはほとんどない	そのようにしたことは何度かある	多くの場合そのようにした	常にそのようにした
1	他の人のやり方をよく観察して、上手くやり方を真似した	1	2	3	4	5
2	あまり気にせず、慣れるのを待った	1	2	3	4	5
3	どのようにすれば上手くできるのか、真剣に考えた	1	2	3	4	5
4	自分なりに、いろいろと工夫してみた	1	2	3	4	5
5	上手い人に、コツを教えてもらった	1	2	3	4	5

■片方向に単調・等間隔な配点が前提



両側選択形式

連番	A	B
1	初対面の人と話すときでも、相手と距離をおかず親しく接する	初対面の人と話すときには、距離をとって礼儀正しく接する
2	人に接するときは、壁をつくらず本音で会話する	人に接するときには、礼儀を大切にして丁寧話す
3	感情に流されず、客観的な状況を分析して判断を下してきた	客観的な情報よりも、人の気持ちや人間関係に配慮して判断を下してきた
4	チームでものごとに取り組むときには、自分から率先して行動してきた	チームで物事に取り組むときには、周りに合わせて行動してきた
5	多少失礼だと思われても、相手の懐に飛び込んでいく	失礼のないように、慎重に言葉を選んで話す
6	おせっかいだと思われても、周りにいろいろと気を回す	相手の自尊心を傷つけないように、必要以上に余計な世話は焼かない

場面想定形式(短文)

連番	項目	選択肢	低 ← 経験値 → 高
1	<p>チームで作業に取り組むとき、一人だけ手を抜いているように思える人がいたら、あなたはどのように行動することが多いですか。</p>	A 何か困っているのではないかと声をかける	1 2 3 4 5
		B 真剣に作業に取り組むように注意する	1 2 3 4 5
		C 黙って自分の作業に集中する	1 2 3 4 5
		D 一緒に頑張ろうと励ます	1 2 3 4 5

場面想定形式(長文)

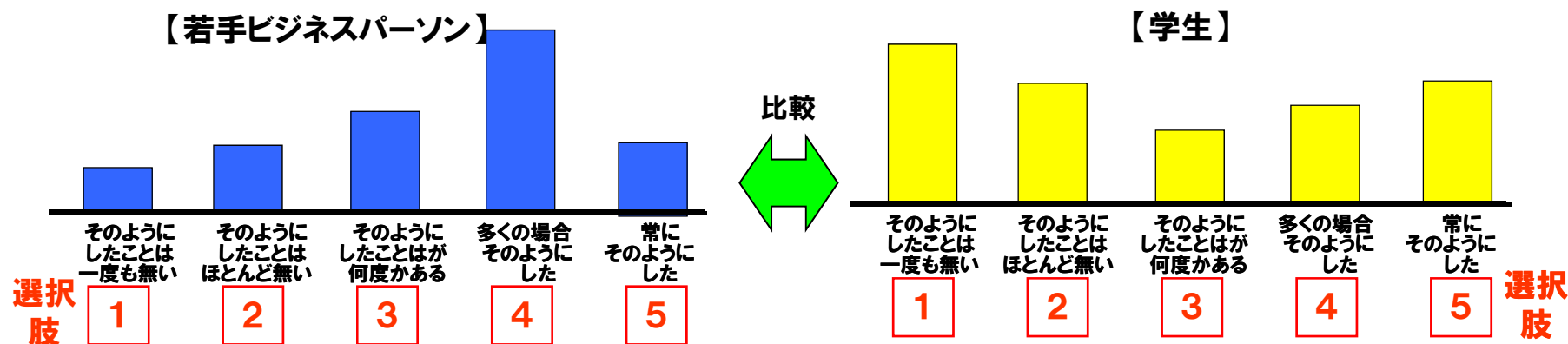
設問

あなたは会社から新商品の企画開発のリーダーを任されています。あなたの部下の一人が、面白い新商品のアイデアをもってきました。ただし、この商品はあなたの会社だけでは商品化が難しく、販売力のある大手企業X社、技術力のあるベンチャー企業Y社の協力をどうしても取り付ける必要があります。ところが、あなたにはX社、Y社との人脈はなく、会社としてもこれまで取引がありません。あなたなら、どのように行動しますか。次のAからEのなかからから あなたの考えに1番近いもの、2番目に近いものをそれぞれ選びなさい。

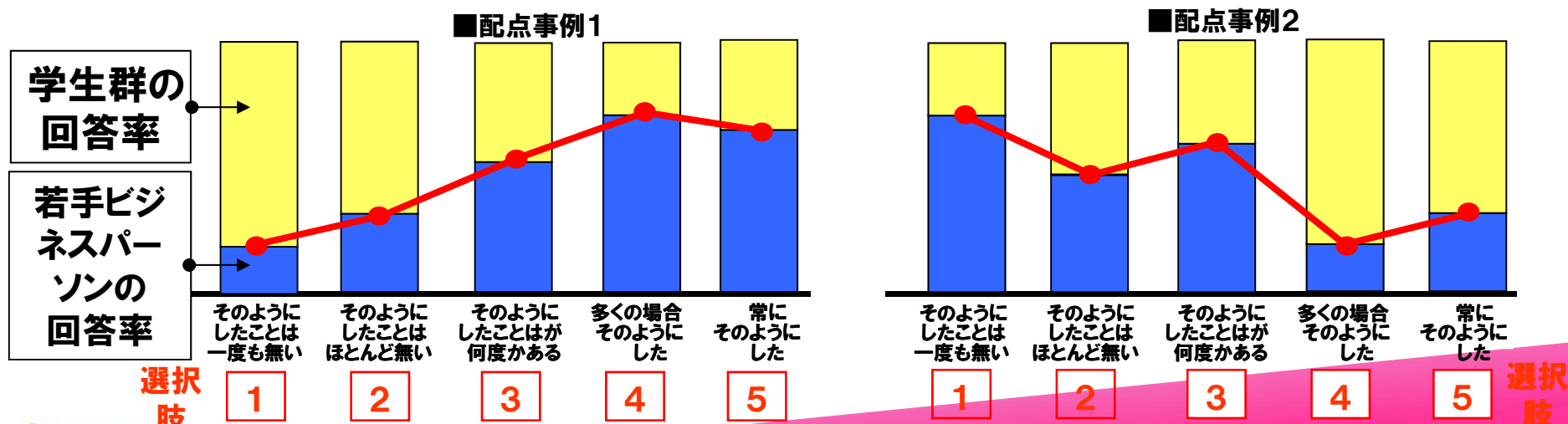
選択肢

- A 部下に、発想は面白いが現実的には開発が難しいことを丁寧に伝える
- B 部下に、面白い発想なので現実的な開発方法を考えるように指示する
- C アイデアを預かっておくことを部下に伝え、機が熟するのを待つ
- D 知人を通じてX社、Y社にアプローチできないか考える
- E すぐにY社に連絡をして協力を打診する

社会で活躍する若手ビジネスパーソンと学生の回答のパターンを比較し、統計的に違いがある設問項目を抽出する(特性抽出)



社会で活躍する若手ビジネスパーソンと学生の回答比率から選択肢の配点を計算する



「基礎力」測定テスト(試行版・ β 版)実施概要

■ 試行版(2010年度)、 β 版(2011年度)

■ 期日:2010年4月~2011年5月実施

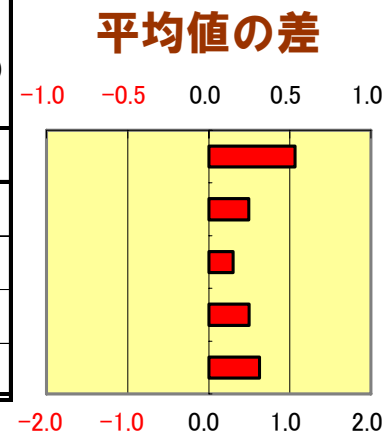
■ 対象:大学生・大学院生 9290人

■ 団体申込み:のべ30大学 8674人

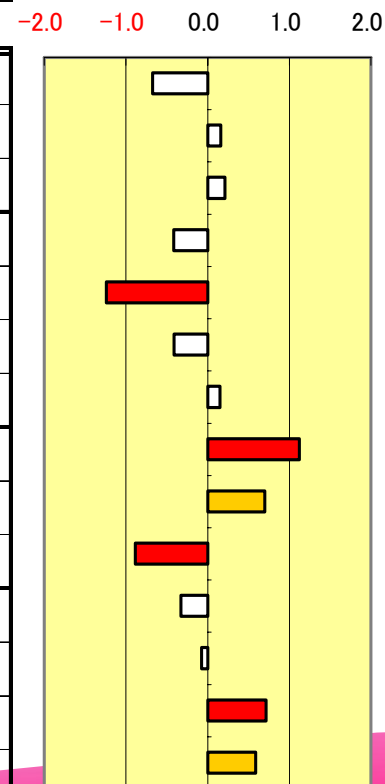
個人申込み(河合塾OB・OGが中心)

・早稲田大学、名古屋大学、京都大学、東京大学、大阪大学、中央大学、
慶応大学、神戸大学、北海道大学、他

男女		女性 (3706名)	男性 (5476名)	平均値差 (女性-男性)	
		平均値	平均値		
リテラシー	問題解決力	問題解決力_総合	4.26	3.73	0.53
		情報収集力	2.62	2.38	0.25
		情報分析力	2.57	2.42	0.15
		課題発見力	2.62	2.37	0.25
		構想力	2.66	2.35	0.31



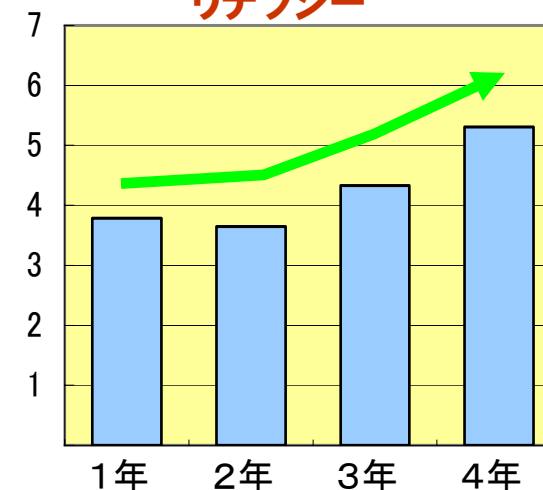
コンピテンシー (標準得点)	総合	問題解決力_総合	49.86	50.53	-0.67
		コミュニケーション力・マネジメント力_総合	50.25	50.09	0.16
		自己管理能力_総合	50.24	50.03	0.22
	問題解決力	情報収集力	49.93	50.35	-0.41
		情報分析力	49.56	50.81	-1.24
		課題発見力	50.17	50.58	-0.41
		構想力	50.11	49.96	0.15
	コミュニケーション力・マネジメント力	親和力	50.83	49.71	1.12
		協働力	50.46	49.75	0.70
		統率力	49.67	50.55	-0.88
	自己管理能力	感情制御力	50.02	50.34	-0.33
		自信創出力	50.14	50.21	-0.07
		行動持続力	50.25	49.54	0.72
		実行力(実践力)	50.52	49.93	0.59



T検定の結果
■ : 1%有意、
■ : 5%有意

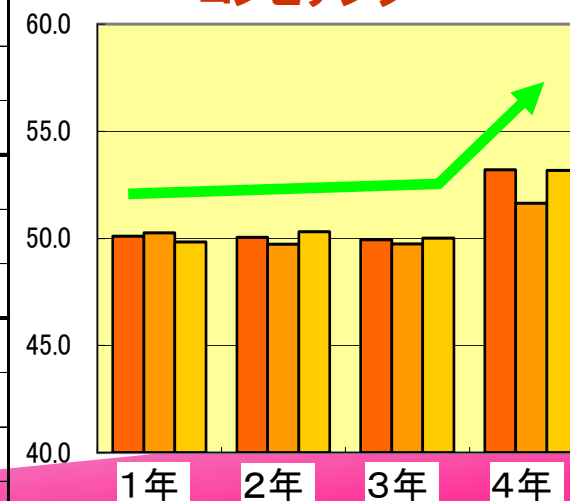
学年		1年生 (5799名)	2年生 (1182名)	3年生 (1562名)	4年生 (302名)
		平均値	平均値	平均値	平均値
リテラシー	問題解決力_総合	3.78	3.65	4.33	5.30
	情報収集力	2.43	2.38	2.60	2.88
	情報分析力	2.40	2.36	2.62	3.17
	課題発見力	2.40	2.39	2.66	2.97
	構想力	2.43	2.32	2.63	2.84

平均値の経年比較
リテラシー



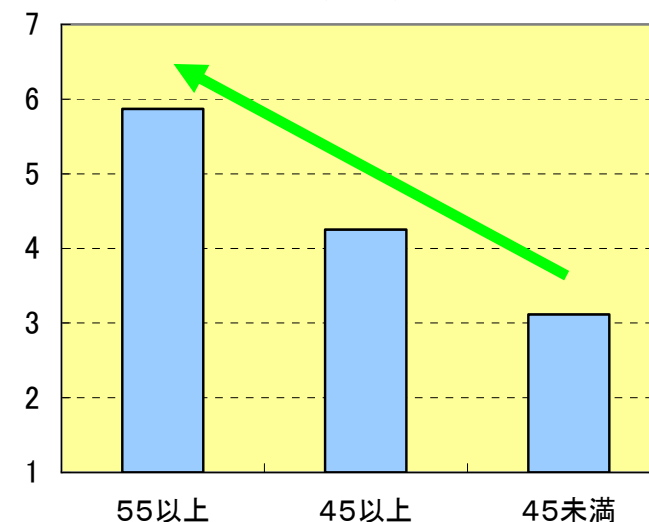
コンピテンシー (標準得点)	総合	問題解決力_総合	50.10	50.05	49.93	53.20
		コミュニケーション力・マネジメント力_総合	50.25	49.72	49.75	51.64
		自己管理能力_総合	49.83	50.32	50.01	53.16
	問題解決力	情報収集力	50.06	50.23	49.90	52.00
		情報分析力	50.25	49.84	50.06	52.67
		課題発見力	50.15	50.48	50.48	52.82
		構想力	49.92	50.17	49.57	51.79
	コミュニケーション力・マネジメント力	親和力	50.22	50.07	49.73	51.99
		協働力	50.21	49.41	49.57	51.27
		統率力	50.20	49.84	50.09	51.21
	自己管理能力	感情制御力	50.01	50.51	49.95	52.00
		自信創出力	49.89	50.49	50.23	52.32
		行動持続力	49.74	50.01	49.36	52.18
		実行力(実践力)	49.86	50.23	50.40	53.13

コンピテンシー



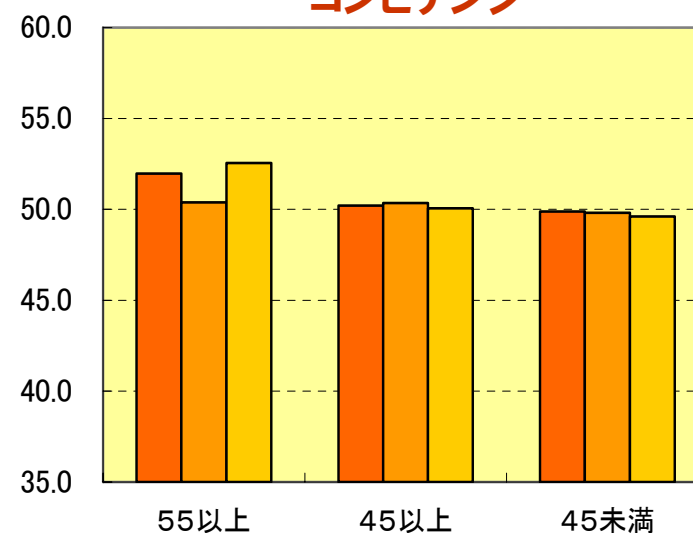
■ 入試難易度		偏差値 55以上 (571名)	偏差値 45~55 (4952名)	偏差値 45未満 (3578名)	
		平均値	平均値	平均値	
リテラシー	問題解決力	問題解決力_総合	5.87	4.25	3.11
		情報収集力	3.11	2.55	2.25
		情報分析力	3.46	2.62	2.08
		課題発見力	3.06	2.61	2.17
		構想力	3.11	2.64	2.10

平均値の入試難易度別比較
リテラシー

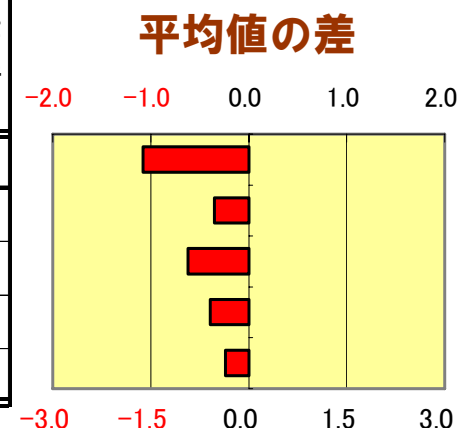


コンピテンシー (標準得点)	総合	問題解決力_総合	51.98	50.20	49.88
		コミュニケーション力・マネジメント力_総合	50.38	50.36	49.81
		自己管理能力_総合	52.56	50.06	49.61
	問題解決力	情報収集力	50.73	50.22	49.90
		情報分析力	50.95	50.22	50.18
		課題発見力	52.84	50.27	50.10
		構想力	52.20	50.02	49.53
	コミュニケーション力・マネジメント力	親和力	51.10	50.37	49.69
		協働力	49.91	50.40	49.55
		統率力	50.41	50.21	50.12
	自己管理能力	感情制御力	52.55	50.08	49.92
		自信創出力	52.02	50.10	49.85
		行動持続力	51.40	49.81	49.47
		実行力(実践力)	52.45	50.27	49.49

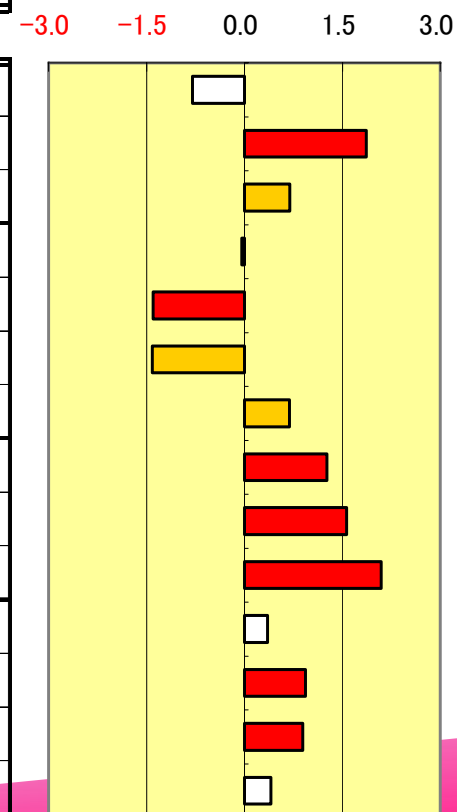
コンピテンシー

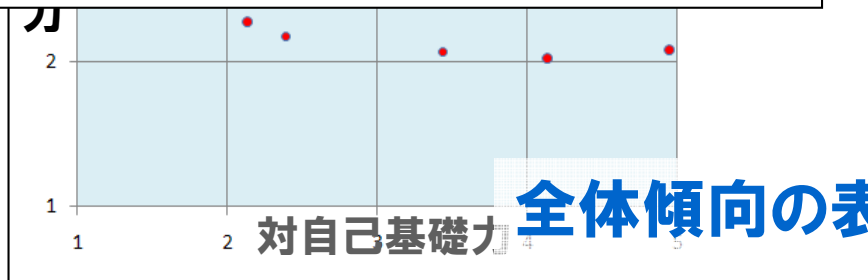
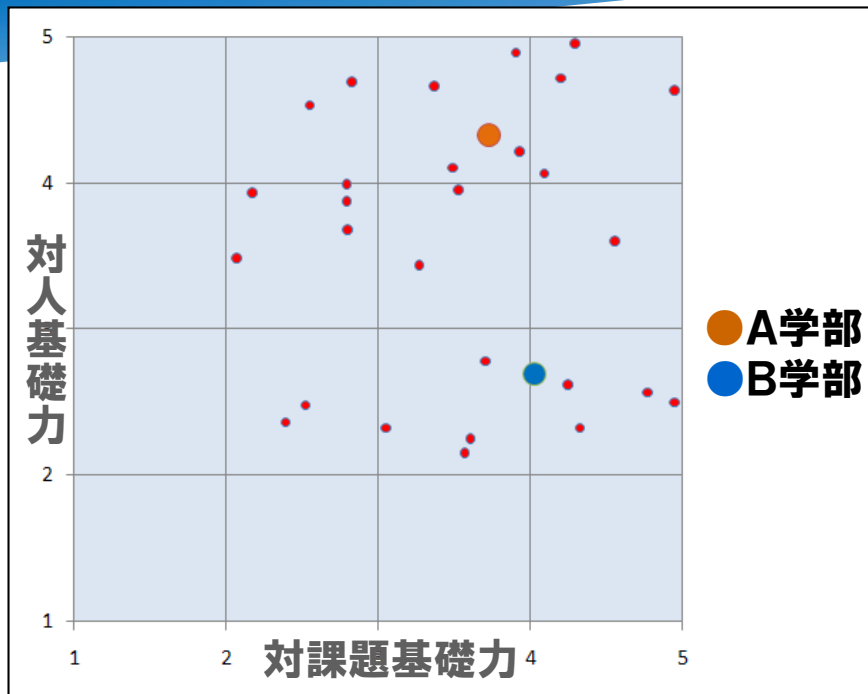


文 理		文系 (7641名)	理系 (1424名)	平均値差 (文系-理系)	
		平均値	平均値		
リテラシー	問題解決力	問題解決力_総合	3.74	4.81	-1.08
		情報収集力	2.41	2.76	-0.35
		情報分析力	2.36	2.98	-0.62
		課題発見力	2.40	2.79	-0.39
		構想力	2.42	2.66	-0.24



コンピテンシー (標準得点)	総合	問題解決力_総合	50.05	50.85	-0.80
		コミュニケーション力・マネジメント力_総合	50.46	48.60	1.87
		自己管理能力_総合	50.17	49.47	0.69
	問題解決力	情報収集力	50.12	50.16	-0.04
		情報分析力	50.02	51.42	-1.40
		課題発見力	50.13	51.54	-1.41
		構想力	50.09	49.40	0.69
	コミュニケーション力・マネジメント力	親和力	50.37	49.11	1.26
		協働力	50.31	48.74	1.57
		統率力	50.54	48.45	2.09
	自己管理能力	感情制御力	50.24	49.89	0.35
		自信創出力	50.28	49.35	0.94
		行動持続力	49.94	49.04	0.90
		実行力(実践力)	50.17	49.77	0.40





全体傾向の表示はイメージです

B学部平均						
◆	600人					
スコア	標準偏差	1.00	2.00	3.00	4.00	5.00
2.17	0.05					
2.78	0.09					
3.30	0.97					
4.61	0.32					
1.47	0.61					
2.27	0.96					
2.99	0.86					
3.19	0.58					

1. 学生の強み・弱みのデータを基に、全学・学部・学科の課題を発見し、カリキュラム改革やFD等の施策立案に活かすことができます。

2. 複数の対象集団や、経年でデータを収集することで、施策の進捗や成果を把握することができます。

2004年度

2011年度

認証評価(第1サイクル)

認証評価(第2サイクル)

見直しポイント

見直しポイント

教育評価機構
日本高等

- ① 自己点検・評価は、自主的な質保証の一環であることを徹底
- ② 「評価基準」を限定し、これに大学独自の点検・評価項目を設ける
- ③ **客観性のある証拠(エビデンス)を重視する**

大学基準協会

- ① PDCAサイクルが十分に機能するよう内部質保証システムに注目する
- ② **教育活動を中心に、適切な水準の維持と、その向上能力について客観的根拠(エビデンス)に基づき証明する**

評価基準項目

「教育目的の達成状況の評価とフィードバック」

- ・教育目的の達成状況の評価に関する研究、またはその評価結果の分析および教育改善へのフィードバックを示す資料を提出すること

評価基準項目

「教育の内部質保証システム」

- ・教育の取組状況や大学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証する

PROG	リテラシー				コンピテンシー					
	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	対課題基礎力			対人基礎力		
					課題発見力	計画立案力	実践力	親和力	協働性	統率力
授業内容 (シラバスより)	課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理する力	収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を把握する力	現象や事実の中に隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定する力	さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、具体化する力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う力。構成要素は、情報収集・本質理解・原因分析など。	問題解決のための効果的な計画を立てる力。構成要素は、目標設定・計画評価・リスク分析など。	効果的な計画に沿った実践行動を取る力。構成要素は、実践行動・修正・調整・検証・改善など。	円満な人間関係を築く力。構成要素は、親しみ易さ・気配り・対人興味・多様性理解・人脈形成など。	協力的に仕事を進める力。構成要素は、役割理解・連携行動・相互支援・相談・指導・他者の動機づけなど。	場を読み、目標に向かって組織を動かす力。構成要素は、意見を主張する・創造的な討議・意見の調整・交渉・説得など。
ホテルオペレーションA	ホテルで活躍している現役ホテルマン(部門長)から話を聞く	○	○		○					
	予習をして、事前に質問事項を考えておいてもらう	○	○		○					
	履修学生諸君からの質問を歓迎する			○	○			○		○
	組織、サービス提供システム、収支構造などを理解する		○	○	○					
	毎回その日の講義のキーワードを選び、カードに書き込む		○	○		○		○		
宿泊業論	ロビー、客室、レストラン、宴会場、チャペルなどを視察する	○					○			
	新聞・雑誌記事のコピーを配り、世の中で起こっている大事な事柄を解説する	○	○	○		○				
	教員からの質問には一生懸命考えて、できる限り回答する			○				○		○
	英語の専門用語は、辞書で意味、発音、アクセントを確認する習慣をつける	○						○		
	3~4人一組のチームでレストランを視察し、評価レポートと改善案を作る	○	○	○	○	○	○	○	○	○

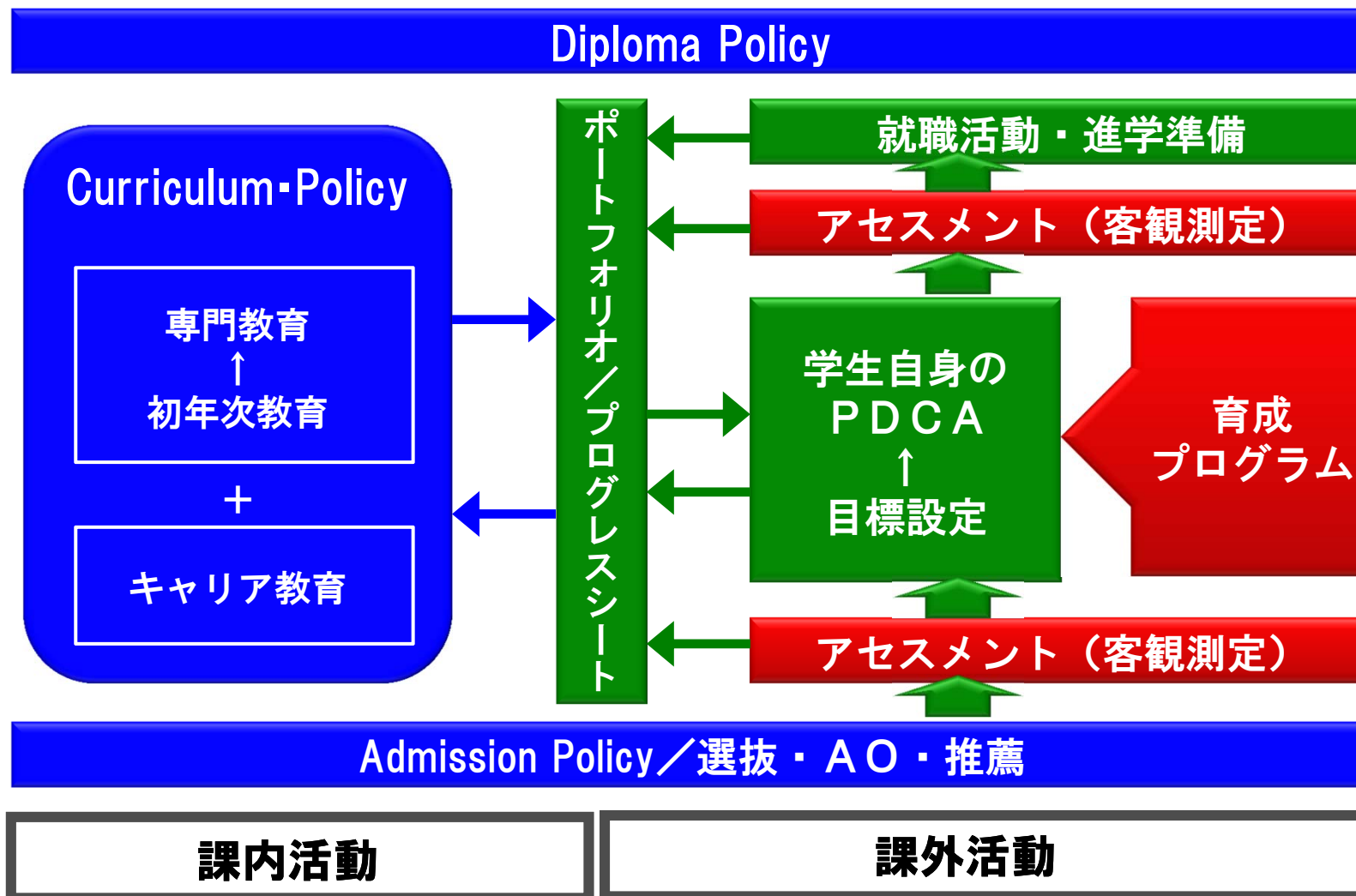
カリキュラム・マップ作成のための先生アンケート例

	Q. 先生の授業ではどのような取り組みを行っていらっしゃいますか？ または、どのような経験ができますか？ 当該授業の内容がどの程度あてはまるかをお答え下さい。 ※まだ、実施されていない場合も、現在お考えの授業内容をイメージしながらお答え下さい。	全く行って いない	稀に行っ ている	たまに 行ってい る	しばしば 行ってい る	おおむね 常に行っ ている
Q1	物事の関係性を図示して捉えるよう指導している	1	2	3	4	5
Q2	専門に進むための基礎的知識を学習させている	1	2	3	4	5
Q3	目に見える事実から、その背後にあるパターンや概念を考えさせるようにしている	1	2	3	4	5
Q4	社会的なマナーや法律を遵守するよう指導している	1	2	3	4	5
Q5	情報を発信したり吸収したり、学生相互に情報をやり取りする機会を作っている	1	2	3	4	5
Q6	物事を分類する基準(枠組み)や根拠を考えさせるようにしている	1	2	3	4	5
Q7	様々な情報を基にしながら、柔軟に仮説を立てるよう指導している	1	2	3	4	5
Q8	様々な情報源を目的に応じて適切に活用できるよう指導している	1	2	3	4	5
Q9	論理的に考察した結果を、相手に伝わり易いように的確にまとめるよう指導している	1	2	3	4	5
Q10	目標を達するまでの具体的な行動計画を立てるような機会を作っている	1	2	3	4	5
Q11	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにしている	1	2	3	4	5
Q12	自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせるようにしている	1	2	3	4	5
Q13	相手が興味を持つように、表現豊かに話したり書いたりする機会を作っている	1	2	3	4	5
Q14	課題解決に際して、学生が主体的に取り組む機会を作っている	1	2	3	4	5

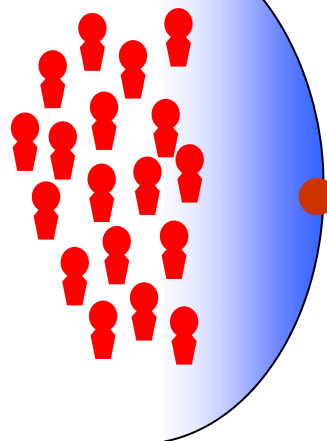
カリキュラム・マップ(マトリックス)の例

授業名	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
専門演習 I (フィールドワーク)					●		●	●	
社会福祉入門					●		●	●	●
社会学概論					●		●	●	●
発達心理学 I			●		●	●	●		
社会教育学入門	●			●	●			●	
社会保障入門	●		●						●
公的支援論	●		●	●					
医学概論 I			●	●				●	●
介護論	●				●				●
精神分析学入門		●		●		●			●
健康保健学入門	●	●							●
福祉学概論					●		●	●	
福祉政策論			●		●	●	●		
公共政策論		●	●	●	●	●			

学士課程トータルで考えた評価と育成モデル

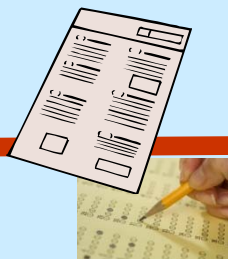


●輩出人材のモデル となる人々



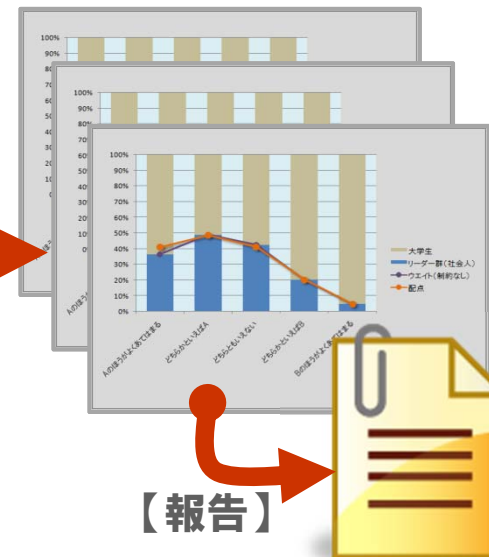
モデル特性の把握

■基礎力テスト



モデル特性
の抽出

【分析】



独自モデルによる測定

●在学生



- ①現状把握
- ②育成目標の設定

地域企業や、
OB・OGを
モデルとして
独自の基礎力育成・
評価が可能に。

モデル特性の
尺度化